

『網をはるクモ観察事典』自然の観察事典 21

構成・文 小田英智 写真 難波由城雄

偕成社（1999年）



夏のあいだ人があまり入らない緑地の山道では、クモがいたるところに巣を張っていました。用心しながら歩かないとクモの巣に顔を突っ込んでしまいそうで

す。

クモといえば、やはり網。『網をはるクモ観察事典』を見てみましょう。どのように網を張っていくか、図解で詳しく描いてあります。まず糸を繰り出して風に流し、糸が向いの枝にかかったらしめたものです。枠を作り、縦糸を何本も張り、らせん状に横糸を張っていくと・・・細かいレースのような、美しい網ができていきます。

でもクモの糸は網を作ったり、獲物をぐるぐる巻きにするだけのものではありません。雄は交尾の前に精子を出すための精網という特殊な網を作ります。いったん精子を精網に出し、それを触肢に吸い込んでからメスの体に注入するのです。一方雌は卵を産む前に、卵を乗せるためのシートを作ります。クッションにもなり、また卵が樹からはがれ落ちないようにしているのです。

よう。あらゆる場面で、糸は重要な役割を果たします。そしてそのために、クモは7種類もの糸腺から用途にあわせた糸を出していくのです。

生まれた子グモたちは、あるおだやかな夕暮れ、自分の体から出した糸を風に乗せ、自分もその糸に乗って冒険の旅に出ます。一匹、また一匹。新天地で自力で網を作り、餌を捕えて生きていくために。



網を張るのには、そのクモが生きていく何日分ものエネルギーを使うのだとか。今まではクモの巣を見つけると平気で壊していましたが、ずいぶん申し訳ないことをしていたのですね。反省・・・

この画像は偕成社の了解を得て使用しています